

徳川 夢声
柳家金語楼
両氏を囲む座談会

昭和三十四年七月十三日（月）
於 銀座・花蝶

門倉 何うも今日は、いろいろと……。

時間はおありですか？

金語楼 え、あります。

夢声 何時迄？

金語楼 一時間から、一時間半位。これ一年載せる位あります。別に何かむづかしいことじゃないですか？

夢声 つまりですね。こういう洋菓子の製作並に、営業についてですな、あーその哲学的見地からね……。

金語楼 買う方の立場から、安い方がいいと———それでもいいですか。（笑聲）

私は余り大きなことが云えないのですよ。つまりもう店ではいつも、頼むと上のチョコレートだけ負けてくれるらし

BON
C'est doublement bon

い。だからお客としてはあまりいいお客ではなかったらしい。（笑聲）

夢声 上のチョコレートを？ あのかういうチョコレートのかかるお菓子の下の安い所だけしかとらないのですか？

金語楼 お値段はそうです。（笑聲）

夢声 そりあい客じゃないねエ。（笑聲）

金語楼 箱を持って出る場合には、傍の見る目はいいお客です。

でもマア、相手が大きいから構わないだろうと思って。

夢声 私はね、洒落は嫌いですがね。コロンバンさんでは何かと洒落を云いまして——ステッキ屋さんがあったでしょう。「あのステッキ屋はどこにあるか知ってるかてんで、さあ、あれはコロンバン先だよ」（転ばぬ先の杖）という洒落を云ったことがある。

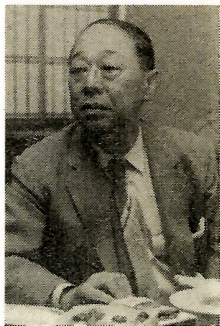
門倉 それが有名になりました。

金語楼 いや私の方でも、良く前に落語をやっておる時分には、「あ、コロンバンは」と芸者が入って来たなんて。

その時分には、NHKの放送でそれをやったけれどもね、何とも云いませんでしたよその頃は。

芸者が入って来て「オ、コロンバンは」「お前は甘そうな子だな」などと云っても……

夢声 私の「コロンバン先の杖」もNHKをやったかもしれませんよ——NHKですよ。これは。



金語楼 カステラには裏表があるのですから(笑聲)。それでよろしゅう御座居ましよう。

夫人 貞明皇后様がカステラの表面をとてゝも気になさつた相ですわね。いいと、とてもお喜びになるとか……。

夢声 占かなんか、何かなさ金語楼 昔、服部の処に山崎洋服店がありましたナ。夢声 あれあ、何うしちゃったんだらう。

お宅じゃ何ですわね。あのテラスと云いますかね、あれが日本ではバリなんかみたいになうまいかないすわね。
門倉 いかないですわね。今はとにかく、昔は、銀座といえども、ほこりで蒙々としておりました。テラスのような感じを出そうと思つて、ああいうように拵けてやりましたわ、結局、ほこりが多いし、皆さんが街頭に出るということに嫌がる。敬さんと(石黒敬七氏)私と、年中飲んでいた。敬さんはいいですよ。遊んでいていつも来ますからね。夫人 さくらで御座居ます。
夢声 あれはね僕らも、バリに行きましてね、案内してくれる人もないし、こつちから案内を頼むのも面倒だし、夫婦で盲滅法にブラブラ出るでしよう。
何処つてあてもない、取りあえずこゝろで腰でも掛けていようかてんで腰掛けていて、通る奴を批評し乍らコーヒーか何か飲んでゐるとね、実に時間がつながるんですよ。あとからあとから色々な奴が来て、そいつの顔だの、着物のサカナにしてしゃべつてゐる。
門倉 サカナはよかつたですわね。
夢声 と通る方も、店におる奴をサカナに話しながら「彼処に日本人がゐるよ。格好の悪い女房だ」てな事を云い乍ら(笑聲)——これは出るのかな、困つたナ——あれは日本でも、なんですわねもうそろそろもう少し舗道が広げれば：門倉 広いと同時にほこりが立たなければ——バリではあ

れがいい財源になるそうです。税金を取るのもそれがいい財源となるそうです。所が、最近、余り出過ぎると、引つ込めさしておるそうです。
夢声 そう広くない所でもやつてますわね。
いいですよ。つまりね大道にテーブルと椅子を並べて、ビールでも、コーヒーでも飲んでゐる——料理を食つてゐる人はあまりない。
金語楼 彼処でランチをゆつくり食べておつては……(笑聲)
夢声 いやスバゲティイぐらい食つてますよ。
金語楼 あれはマア細いですから——ゴミのたかりも少ない……。
今のビールで思い出したんですけど、私の女房が大変お店が好きらしいですな。我々の時ですから、お祝いにコーキなんていうのがまだ珍らしい頃。夜、方々が済んでから、コーヒーを飲むというのは何だか嫌で、お菓子が出たから、ビールでやつた。
門倉 ビールでお菓子？！
金語楼 これが、大変に結構でしたな。
夢声 ほんとですか。変にこう、あぶくが出やしませんか？
金語楼 出ません。但し、そのビールだけではない。お薄(茶)の容れ物に茶さじ一ばいお薄を入れてまして、ビールで

金語楼 私はあのウインドを見て初めて洋服を着たくなりました。

夢声 大礼服か何か着た人がグルグル回っておった。

金語楼 こっちは噺家で、着物しか着た事がない。両国の立花やに来る常連で私をひいきにしてくれたお客がある。その人が柳原の古着屋であつたから「洋服を着たいのです」と云うと、「うちへ来なさい」と云われたので、行って着て見ると、ロシヤやなんかから目方で来るのがあるんですな、外国から——どれを着てもね長過ぎて、上着だけでズボンになるようなものばかり、「その中で勝手にどれでもいいのから一つ持って行け」「済みません」と云うので持って帰って、詰めのんに洋服屋へ持って行って詰めるのは恥かしい。うちのお袋に頼んで貰うことにした。処がお袋が、和裁がうまくないのに洋服の直しを頼んだから大変、一生懸命こてを当てて、あっちこちしわを伸ばしたり縮めたりして、何うやら手や足が出る位にしたのはいいけれども、方々にこての焼け焦がしだらけ、それでもなんでも洋服を着て銀座へ一べん行き度い。ちんばを引いて足を入れ、手を突っ込むと何うやら着られた。さて、何うやつたらいいだろう。

薄気味悪いが銀座に出て歩いていると、昔、帆船寿司があらりましたね。あの処から大辻司郎と画家の沼田一郎が出て来まして、「おう！日本で西洋の乞食を初めて見た」(笑

声)

ひどい奴、山崎のウインドの処に行つて見たら、なる程、西洋の映画で見る乞食の他にこの姿はない。

上着の寸法を詰めるのをしないで、ただ手足だけ出そうと、そこ丈詰めたのですから、今考えると……

夢声 フロックコートみたいなもの——

昔の銀座で有名なのは、こっち側で大徳の帽子屋でしたなそれから未だにあるものでは資生堂、あっち側では、矢張り帽子を売ってた家で信盛堂——赤く塗った……

金語楼 シャツや何かも。

夢声 彼処で、私はね、昭和十二年にロンドンへ行く時に、向うへ行ったらシルクハットを被らなければいけない。乞食でも被っておるといふので買に行つたですよ、シルクハットをね。高いのはいらないから、一番安いのかの奴をくれと云つた。僕にはそれ位が丁度いい。一番安いってのも嫌だ。

一番安いその一つ上ならいい。

それは先だって秩父宮様がお求めになったのと同じです。

(笑声) それぢやそれだつて。

秩父宮様がお求めになったのも一番安いから一寸上。

(笑声)

金語楼 二た通りしかなかったたら(笑声)何にもならない。

夢声 「このまま持つて行くのか」「いや、ケースは御座

居ます」ケースの方が高い(笑声)

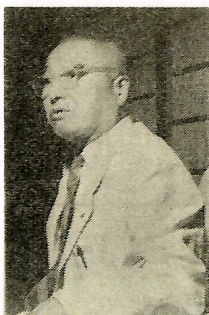
驚きましたねエ。ケースが高い。それを持って軍艦に乗つたらね、変な所に置いたら片付けられちゃつた。軍艦は変な所に置くとは何時怒られるか判らない。怒られるのは嫌だから、到頭云わずに一度も被らない。戦争もいよいよ敗けにきまつた昭和十九年ですか、『足柄』でしたかね、「今度整理したらシルクハットが出て来た、これは御心当りはないかと、何うもあなたの遺失物らしい」と云つて来た。昭和十九年頃ね、それから「そうだ」と云つたら海軍から送つて来ましたよ。えらいもんですな。当時の海軍はまだしつかりしていた。それから間もなく『足柄』は沈められちゃつた。

扱てこのシルクハットを被る時がないでしょう。お葬式だつて被つて行けば笑われます。何うにも仕様がなない。

そうしたら、松旭斎一行という人がいましたよ。あれが玉突の棒で曲芸をしていた、その時被るシルクハットというのがポロポロになつて、シルクハットがないという。僕のをやろうといつたら、有難いと、一度も被つたことがない

新しいのをやつたが、ケースは何かに使えるというのでやらなかつた。(笑声)

金語楼 何うでせうケースを被りますかな——(笑声) 載け



ば。

夢声 ケース丈残しておいた所がいい。その方が高いから

——帽子は曲芸屋にやつちやつた。

金語楼 あとでケースから(笑声)

帽子では話がある。大徳に誰方にでも合う帽子というのがある。行つて「頼みますわ。」つていうと向うも顔を知つておりましたが、「あなたに合う帽子、困つたな」というのでベレー帽というのをくれた。

その時分は知りませんからね「赤ん坊のかぶる奴をね禿頭にのせられるか」「大人がかぶるのですよ」と云われたが受けなかつた。あれをかぶるたつて、洋服ぢやないですから、寄席を歩いておるのは紋付でしょう。

夢声 紋付のベレー帽、裏店の易者みたいだ。(笑声)

金語楼 一寸やつぱり興彩を放ちました。夏でも外套を着なければベレー帽をかぶれない。縞の紋付で袴はいてね、袴はあと当分はけなかつたんで着流しですから、紋付の着流しにベレー帽では、一寸合いません。(笑声)

門倉 今日面白いお話を有がと御座居ました。でわこの辺で——

(聴き手は門倉国輝、門倉夫人)